

(別表) 全国美術館会議 東日本大震災 美術館・博物館総合調査分科会これまでの活動

年	月	日	地震発生から総合調査分科会以前		
2011	3	11	14時46分東日本大震災発生、同日18時全国美術館会議 非常連絡網本部を設置		
	3	12	福島第一原子力発電所で最初の水素ガス爆発		
	4	7	会員館からの救援要請があり、全国美術館会議 東日本大震災救援・支援対策本部を設置		
	4	15	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会を設置		
	11	11	全国美術館会議 東日本大震災復興対策委員会（以下：復興対策委員会）を設置		
			総合調査分科会の活動	事務局の活動	会場
2012	8	10	総合調査分科会準備会第1回会合（名称決定、要項等の検討）		国立西洋美術館
	9	4	総合調査分科会準備会第2回会合 （復興対策委員会への提案準備作業）		愛知県美術館
		25	第4回復興対策委員会で、東日本大震災文化財レスキュー事業記録集分科会とともに分科会として承認、10月17日に総合調査実施要項施行	総合調査実施要項の修正	国立西洋美術館
	10	23	総合調査分科会第1回会合 （アンケート内容最終確認、送付先選定、調査方法検討）		国立西洋美術館
	11			被災地美術館・博物館へのアンケート送付	
		30	アンケート締め切り	アンケートのとりまとめ	
				予備調査依頼文書の発送	
	12	6～7	総合調査分科会第2回会合及び第1回予備調査（宮城県）		宮城県美術館他
2013	1	中旬	アンケート分析、実地調査先選定作業	ビデオカメラ等の調査備品購入	
			被害調査記録書、総合調査マニュアルの整備		
		24	石巻文化センター調査	予備調査依頼文書の発送	
	2	16～17	総合調査分科会第3回会合及び第2回予備調査 （保存研究部会第43回会合15～16日）（岩手県）	予備調査依頼文書の発送	岩手県立美術館他
	3		実地調査館資料収集		
	5	中旬	調査員募集手配、実地調査館及び調査日調整	実地調査員募集告知 （各館に文書+メールマガジン等）	
				調査依頼文書の発送	
	6	4～7	第1回実地調査（茨城）		
		13～15	第2回実地調査（福島）		
		18～21	第3回実地調査（岩手・宮城）		
	7	18～20	第4回実地調査（栃木）		
		22～23	第5回実地調査（栃木・群馬）		
	9	下旬	報告書原稿締め切り		
	11	6～7	第1回編集会議（校正、用語の統一及びコラム項目等の追加）		兵庫県立美術館
	12	下旬	コラム原稿締切、印刷会社決定		
	2014	1	上旬		報告書原稿確認依頼文書の発送
2		4	編集代表者会議		国立西洋美術館
3		11	第2回編集会議（校正）		国立西洋美術館
4		上旬		報告書原稿確認依頼文書の発送（最終）	
5			報告書刊行		

■調査前日までに準備すること

1. 調査対象館の情報を事前に収集・把握しておく。
 - 施設へのアクセス方法
 - ご担当者氏名
 - コレクションの特色
 - 震災当時の展示内容
 - 被害報告書などの有無
 - 建物の概略図面
 ネットなどで入手困難な場合は、前もって頂戴するか当日ご用意いただく。
2. メインインタビュー役(リーダー)、記録メモ係、カメラ係、ビデオ係を決めておく。
3. その施設の調査報告書を執筆する人を決めておく。
4. 集合場所と時刻を決めておく。
5. 先方に調査に何うメンバーの所属と名前、およびその調査所要時間を伝えておく。

■当日の持ち物

- カメラ
- ビデオカメラ
- 予備のバッテリーとSDメモリーカード
- 手みやげ (以上全美事務局で用意)
- 名刺
- 『阪神大震災総合調査報告』の部分コピー (説明用)
- 建物概略図面
- 鉛筆
- 調査用下敷きクリップ・ボード
- 「東日本大震災総合調査記録シート」
- メジャー
- ペンライト

■調査のおおまかな流れ

1. あいさつと名刺交換
 - ↓
2. 調査の趣旨説明(状況に応じて変更ください)
 - この美術館・博物館総合調査は、東日本大震災で揺れの大きかった地域を中心に調査しています。必ずしも被害の大きかった施設だけを対象にしているわけではありません。
 - (阪神大震災総合調査の報告書のコピーをお渡ししながら) 阪神・淡路大震災の時と同様に、美術品を所蔵されている館を中心に調査をさせていただきます。
 - この総合調査の目的は、被害状況の調査だけでなく、職員の方々の日ごろのご努力や工夫などによって被害を軽減させた点についても参考にさせていただければと考えています。
 - この調査は、来年度中に報告書としてまとめ、関係者等(新聞社などメディアも含む)に配布するほか、全国美術館会議のパスワード認証のかかった会員館のみが閲覧できる専用ページに掲載します。また、一部は一般の方にも公開したいと考えていますが、いずれも公開する内容につきましては、事前に原稿をご確認いただき承された内容のみとします。
 - 調査は、建物、美術品、展示ケース、収納棚などを対象としています。

- また、震災時の皆さまの状況やお困りだった点などをお聞かせ願います。
 - ↓
- 3. 写真撮影の許可を得る
- ビデオの記録は、あとで報告書をまとめる際に、位置関係など記憶があいまいになってしまった時のメモとしての役割が目的で、公開することはありません。しかし、ビデオ撮影してはいけないところはその都度ご指示ください。
 - ↓
- 4. 被災直後の記録写真があれば借用する時期の相談。後日整理して相手が郵送してくださる場合は、全国美術館会議事務局からCD-Rと返信用封筒をお送りする旨伝える。
- ↓
- 5. 相手が疲れるので、現場を確認する前に質問できる項目は座りながら済ませる。
 - ↓
- 6. 現場の調査
 - ↓
- 7. 調査終了、お礼
 - ↓
- 8. 記憶が薄れないうちに、「東日本大震災総合調査記録シート」を記入する。
 - ※該当しない箇所には記入する必要はありません。
 - ↓
- 9. 次の調査の準備

■質問・調査の要点

※各館によって事情が異なるので、聞き取り調査のポイントは適宜ご変更ください。

- 震災発生直後のご対応
 - 当日ご出勤されていたか、何人ぐらいの職員で対応されたか
 - 来館者のこと(避難誘導等)
 - セキュリティのこと
 - 作品のこと
 - ライフラインの復旧時期
 -
 -
- その後しばらくのご対応
 - 職務に専念可能であったかどうか
 - 二次災害防止の取り組み
 -
 -
 -
- 少し落ち着かれてからのご対応
 - 建物の修繕
 - 作品の修復
 - 再開へ向けてのご準備
 -
 -
 -
- 被災後、地震対策について館の考え方が変わったところは？
 - 敷地 建物(壁 床 天井)
 - ユーティリティ(空調設備 防火設備)
 - 展示作品 展示ケース 展示台
 - ワイヤー 留め具
 - 収蔵庫 (棚 絵画ラック)

第1回予備調査でのビデオ撮影に関する覚書

2012(平成24)年12月7日

【心がけたこと】

- ・ 音声の記録も重要な役割なので、特に撮るべき対象がない時にも、あまり映像にこだわらずビデオを回し続けた。
- ・ 座ってお話を聞いている時には特に、ビデオ撮影をあまり意識させないよう、ビデオを低い位置に持って撮影した。
- ・ 展示室内でももちろん、座ってお話を聞いている際にも、「これはこの時の～」といった説明があった時には、お話に合わせて机上の紙資料なども撮影した。
- ・ 基本的には常に、お話をさせていただいている学芸員さんの傍らにるようにした。
- ・ 天井や壁のキズなど、撮影する対象に突然寄るのではなく、ズームを使い、どこの部屋のどこの部分の壁なのか、天井なのか、後で見えてわかるように撮影した(複数の展示室があった場合には、展示室に入るまでの経路、展示室内も順に撮影)。

【気づいたこと・気になったこと】

- ・ 携帯用のライトなど持っているとう便利(展示台下部のキズなど撮影する際に、暗すぎてうまく撮れない。前日の調査では他の人にライトで照らしていただいたりした)。
- ・ 非常口などから出入りする際の扉の開け閉め、出入りに関して、その都度周囲の方々にお気遣いいただき助かった(基本、両手がふさがっている)。
- ・ 荷物はできるだけ少なく。館に置かせていただいてもよいだろうが、出張用の大きい鞆などは、予め駅のロッカーに預けるなどした方がすぐに動きやすい(撮影していると展示品などに触れてしまわないか気になる。できるだけ身軽な方がよい)。
- ・ 質問者がだいたい決まっていると撮影しやすい。
- ・ 常に調査館の学芸員さんの近くにしようとしたために、カメラ撮影の邪魔になってなかったか心配。

【その他】

- ・ 1時間半強の撮影で充電が半分くらい減った(ビデオの個体差もあろうが)。
- ・ どのくらいの距離であれば音声が綺麗に入るのかわからなかったため、話している相手との距離感に迷った。
- ・ 挨拶、前置きなどいろいろ必要ではあるが、できるだけ早いタイミングでビデオ撮影をスタートできればよい。

(盛本直美)